



副院長 丹羽 均

皆様、新年あけましておめでとうございます。2024年がスタートしました。今年も大阪大学歯学部附属病院は、患者の皆様のお口の健康を守るため努力してまいります。よろしくお願いいたします。

さて、ようやくコロナ禍から脱出し、通常通りの病院運営を行うことができるようになりました。もちろん今回の災禍から学んだことも多く、皆様が安心して受診して頂けるよう感染対策には十分注意を払っております。

新しい年を迎え、当院も未来に向かって、新しい取り組みを進めています。その鍵となるのが医療情報学です。医療情報学では、IT (Information Technology : 情報技術) を活用し、電子カルテ等から質の高いデータを収集し、医療情報データベースを構築します。このデータベースを用いた観察研究やAI (Artificial Intelligence : 人工知能) による機械学習を用い、新たな医学的知識を収集し、患者の皆様、医療者に還元することを目指しています。例えば、画像とそれに対応する症状などの臨床情報を大量に集積し、深層学習 (Deep Learning) させることにより、画像解析から自動診断や疾患予後予測などが可能となってきました。

医科とは異なり、歯科医療においては、大部分を個人の開業歯科医院が担っています。その規模からすると、医療情報学を駆使した臨床を行うことは、現時点では困難です。したがって当院は、その使命として、医療情報学を活用した歯科医療の先駆けとなる必要があります。皆様もITの利便性・信頼性を実感できる日が、すぐそこまで来ていると思います。

内面

- 特集 1.
当院のサイバーセキュリティ対策について
- 特集 2.
第20回市民フォーラム
「どうなる、近未来の歯科医療」の開催について

お口の相談コーナー お口のマメ知識

裏面

- 2023年10～12月の統計情報
- 病院概要



特集1 当院のサイバーセキュリティ対策について

医療情報室 野崎 一徳

当院では、患者さんの個人情報を安全に保つために、「サイバーセキュリティ」の強化に注力しています。サイバーセキュリティとは、患者さんの情報をデジタル上で守るためのさまざまな方法や技術のことです。

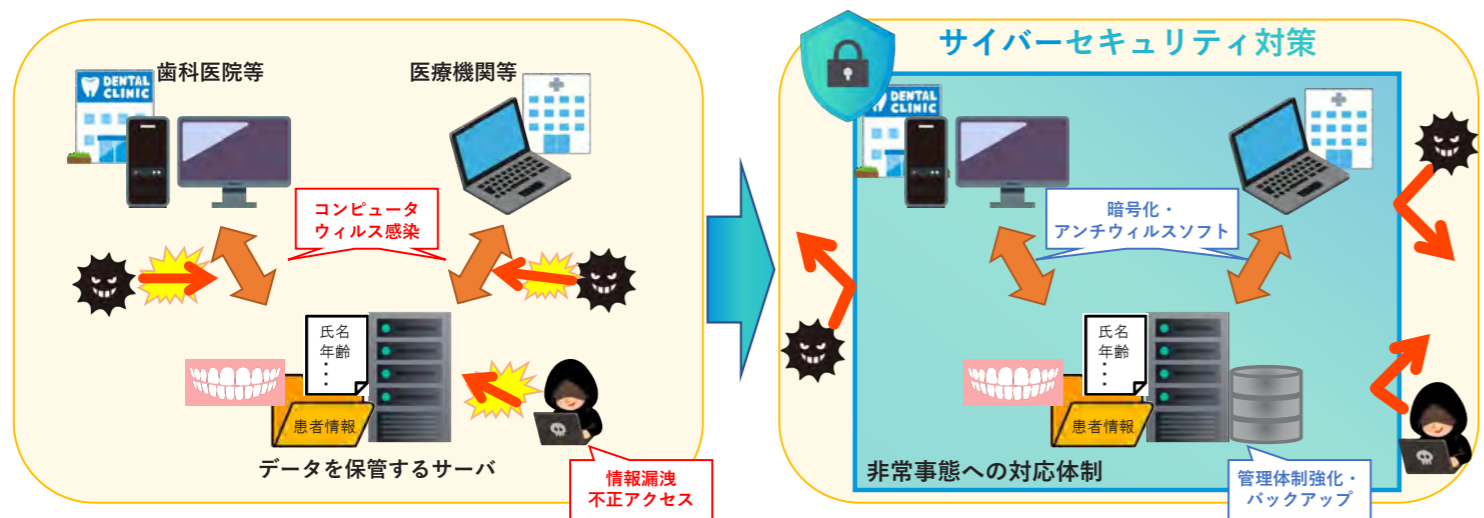
「不正アクセス」は、外部からの不正な侵入のことで、これを防ぐことで患者さんの情報が外部に漏れることを防ぎます。当院では、最新の技術を用いて、このような不正なアクセスから患者さんの電子カルテを守っています。

また、「情報漏洩」とは、患者さんの大切な個人情報や医療情報が外部に流出することです。これを防ぐために、当院では厳格な情報管理と強力な暗号化技術を使用しています。

「コンピュータウイルス」は、インターネットや他の電子機器を通じて感染し、情報を盗んだり、システムを破壊したりするプログラムです。当院では、ウイルスから情報を守るために、複数のバックアップ体制を整備しており、緊急時の対応計画を準備しています。

これらのサイバーセキュリティ対策で、将来的には他の医療機関と患者さんの情報を安全かつ簡単にやり取りできるようになり、より効率的で安心な医療サービスの提供が可能になります。

また、当院は患者さんのプライバシーと安全を守るため、サイバーセキュリティ対策を常に更新し、強化しています。何かご質問やご不明点があれば、いつでもお気軽にご相談ください。今後も患者さんとの信頼関係を大切に、安心して医療を受けていただけるよう努めてまいります。



特集2 第20回市民フォーラム「どうなる、近未来の歯科医療」を開催しました。

11月18日(土)、当院及び大学院歯学研究科主催、歯学部同窓会及び歯学会共催で、「どうなる、近未来の歯科医療」をテーマとした市民フォーラムを開催しました。

当フォーラムは、最新の歯科治療および歯科医学をテーマとし、一般市民向けに健康増進と歯学知識の向上を目的に毎年開催しているもので、今年は約150名の参加がありました。

講演では、幹細胞を用いた骨の再生や、デジタル技術を活用した外科手術の紹介、AIセンサーを使用した口の状態の未来予想等、大きく変貌しつつある未来の歯科医療を5名の講師が分かり易く説明をしました。終始メモを取りながら聞いている方もみられ、参加者が講演テーマに深く関心を寄せている様子が見られました。

講演後の総合討論では、参加者からの質問に対し、司会と講師との質疑応答が活発に行われ、講演テーマへの理解がより一層深まる場となりました。



司会の仲野教授



西村研究科長による開会の挨拶



講演の様子



総合討論の様子



林病院長による閉会の挨拶

口腔がんの早期発見とAI技術が活躍する未来

口腔外科1(制御系) 平岡 慎一郎



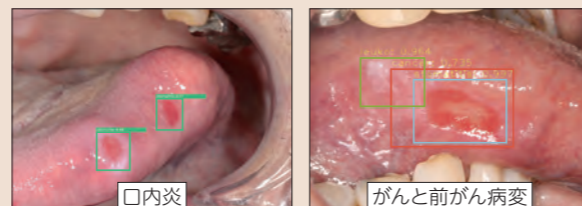
お口の相談コーナー

口の中の健康は、全身の健康と密接に関連しています。特に、口内炎や前がん病変、口腔がんのような症状は、早期に発見し対処することが重要です。口内炎は、痛みや赤い斑点として現れやすく、さらに進んだ前がん病変は、口の中の白や赤の斑点や粘膜の変化として現れて、時に命を奪う口腔がんへと進行する可能性があります。痛くない口内炎のような症状が2週間以上続く場合は初期の口腔がんの可能性があり、注意が必要です。ただし専門医でないとなかなか診断が難しい場合があります。近年、医療分野におけるAIが登場し、特に診断を支援する役割が注目されています。これを実現するため、私たちは口腔がんの早期発見を支援してくれるAIの開発に力を入れています。このAIは口の中の微妙な変化を検出し、歯科医師による診断を支援します。

ただし、AI技術の進歩があったとしても、定期的な歯科検診は、口腔がん早期発見のための最も重要な要素であることに変わりはありません。口腔衛生状態を良好に保ち、定期

的に歯科医を訪れることは、口の中の健康を守る基本です。これらの生活習慣にAIの活用を組み合わせることで、口腔がんに負けない健康な未来を築くことができると私たちは考えています。

AIによる診断



AI自身が作画した、口腔がん早期発見の未来



お口のマメ知識

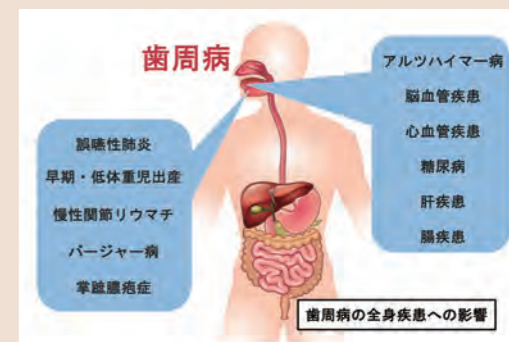
歯周病って全身にも悪影響を及ぼすのを知っていますか？

口腔治療・歯周科 柏木 陽一郎

普段から口の中を清潔にしないと口の中で悪玉菌が増えて、歯周病になります。最近、歯周病は様々な全身状態にも悪影響をおよぼすことが知られるようになってきました。この歯周病と全身状態との関係をつなぐメカニズムについては、歯周病になった歯ぐきへと歯周病菌が侵入したり、歯周病になった歯ぐきで作られる炎症物質が血流へ流入したりすることで、歯周病の悪影響が全身へとひろがると考えられてきました。一方、近年では、腸内環境の悪化、つまり、腸内細菌が悪玉化することで全身疾患に悪影響するという研究成果が多数報告されてきました。興味深いことに、唾液や食事の時の食物と共に歯周病菌を飲み込むことで、その細菌が腸内へ流れていくと、腸内細菌が変化し、大腸がん、肝臓がん、糖尿病やアルツハイマーなどの疾患に悪影響をおよぼすとの報告もされています。

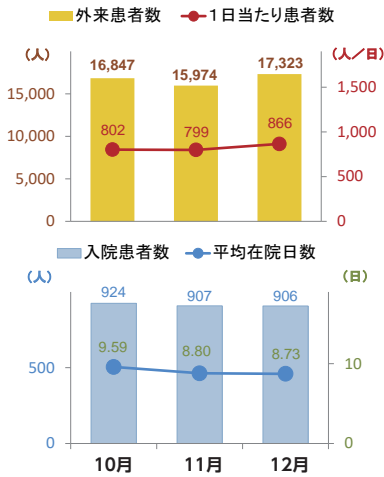
このように、歯周病を治療しないで放置すると、歯を

支える骨が徐々に吸収され、歯がグラグラして食事が困難になるだけでなく、口の中で炎症物質が慢性的に作られたり、歯周病菌を飲み込み続けたりすることで、腸内環境を悪化させ、様々な全身疾患に悪影響を与えます。歯周病について、気になることや心配事がありましたら、ぜひ担当医にご相談ください。

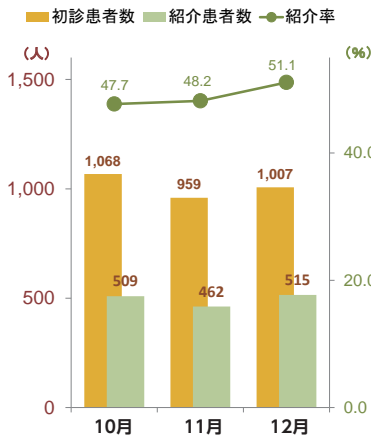


10月～12月患者数等統計

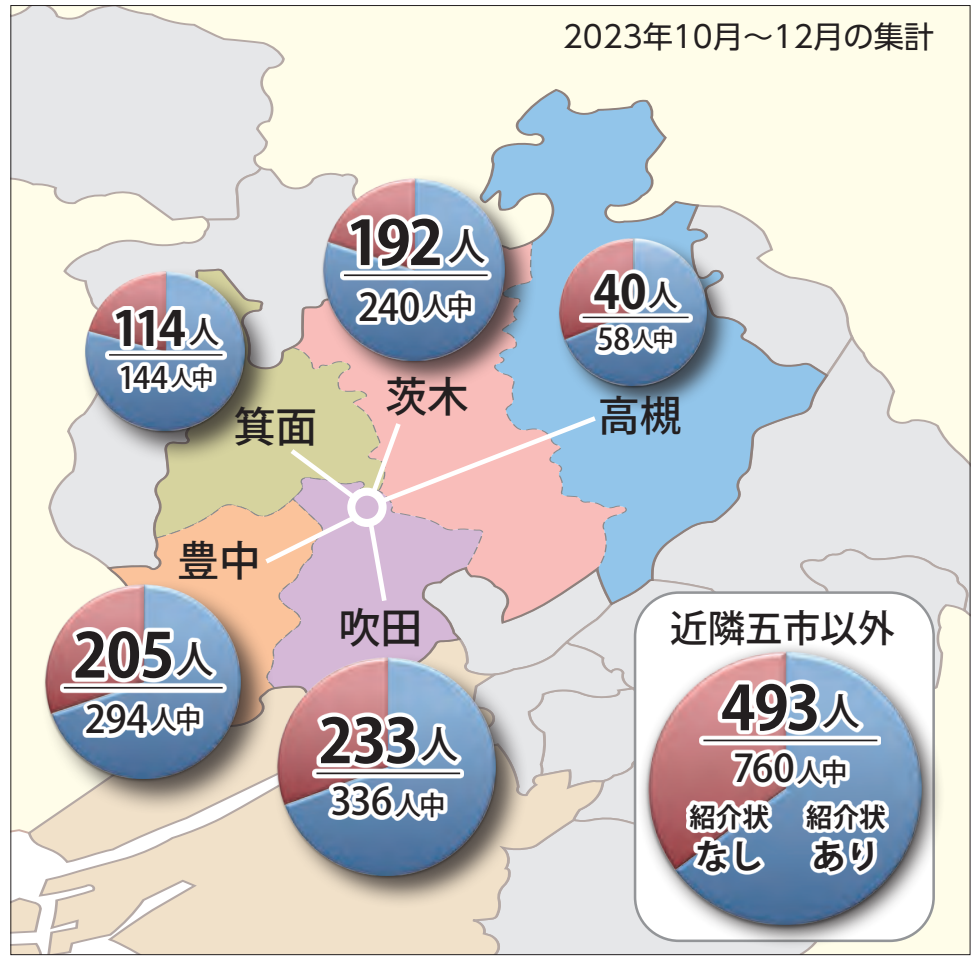
外来患者数・入院患者数



初診患者数と紹介患者数比率



近隣五市の新来患者に占める紹介状持参患者数



病院概要

診療日：月～金 休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）
【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111（時間外）06-6879-2848

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

診療内容：口腔衛生指導、虫歯治療、歯周病治療、歯周再生治療、差し歯、入れ歯、インプラント治療、口腔癌治療、口唇口蓋裂治療、障害者歯科治療、摂食・嚥下^{えんげ}、スピーチ治療、スポーツ歯科、口臭外来、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸、歯の外傷治療等



電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので、ご承知ください。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話（06-6879-2848）のうえ、お越しください。

入院患者様へのご面会は新型コロナウイルス感染対策の観点から制限を設けています。詳しくは病院ホームページをご確認ください。

病院へのアクセス



歯学部附属病院にお車でお越しの際は、西門（歯学部部門）よりお越しください。

看護師・歯科衛生士募集中！

—お問合せ—

歯学研究科総務課人事係
06-6879-2834 まで